

もう がっ こう

# 盲学校とろう学校

がっ こう



わアー大きなまんが本

## 平塚盲学校

豆記者 重田真奈美

わたしたちは、目や耳の不自由な人のための学校、「平塚盲学校」と「平塚ろう学校」のことを取材してきました。

盲学校は、目の不自由な人のための学校です。生徒には、目が全く見えない人や光が分かる人、目を近づければ少し見える人がいます。学校には、幼稚園から高等部まであります。高等部というと十八歳くらいまでだと思っていたら、六十歳くらいの大人の人もいるそうです。その人たちは、成人してから病気やけがなどで目が不自由になり、この学校に来たのです。だから、人それぞれの障害の程度に合った勉強をしています。目が見えにくくなると、仕事が限られてしまうので、この学校の職業科ではりやマッサージなどを学ぶ人もいます。

校内には、様々な工夫がされています。廊下は、何も置かず、歩いているときにぶつからないようになっています。階段は、手すりが二つあり、その手すりの上には、でこぼこがあって、今、何階にいるのかわかるようになっています。玄関は、いつもチャイムが鳴っていて、場所



点字タイプライターに挑戦!



が分かるようになっていきます。  
わたしは、盲学校って点字ばかりだと思っていました。でも、図書室には、大きな字の本や小さな字を拡大してテレビ画面に映し出す装置などがあった、すごいなあと思いました。

今回、盲学校を取材して、初めて体験をたくさんしました。これは、目の不自由な人のため、積極的に手助けをしようと思いました。

## 平塚ろう学校

豆記者 藤間佳恵

わたしが、ろう学校の取材をした理由は、以前から手話に関心があったからです。手話の本ではなく、本当に耳が不自由な人たちが自然に会



話しているところを見たかったからです。学校に入るとすぐに教頭先生が、太鼓を練習している場所に案内してくれました。わたしはびっくりしました。耳の不自由な人が、障害のない大人の人に太鼓を教えていたので、太鼓のような大きな音は、少し聞こえる人もいます。

今から取材に行きます！

ろう学校には、幼稚園、小学部、中学部、高等部があり、三歳から二十歳までの人たち、百二十一人が学んでいます。生徒は、県内各地から通っていますが、中には家が遠く、寄宿舎に入っている人も二十二人いるそうです。会話は、生徒一人一人によって聞こえ方が違うので、全員に手話を使うわけではないそうです。



手話を教えてもらいました

しかし、全校生徒に何か伝えるときは、手話を使うということです。教頭先生が名前やあいさつなどの手話を教えてくれました。教頭先生の手の動きは速かったです。ろう学校を取材して、普段の会話をしているところも見ることができ、耳の不自由な人たちの様子も分かりました。手話をいっぱい練習して会話ができるようになりたいです。